

【新規事業採択時評価】

【空港整備事業】

(独立行政法人等施行事業)

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			B / C	貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)	
		貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C(億円)				
		便益の内訳及び主な根拠		費用の内訳				
成田国際空港B滑走路 延伸及びC滑走路増設 事業	5,125	51,400	<p>【内訳】</p> <p>利用者便益 40,000億円 供給者便益 400億円 残存価値 11,000億円</p> <p>【主な根拠】</p> <p>前提とした将来旅客数</p> <p>2035年度 6,189万人 2045年度 7,146万人 2055年度 8,179万人</p> <p>※供給者便益は、維持補修費9,900億円を控除した額</p>	15,100	<p>【内訳】</p> <p>建設費等 9,800億円 維持改良・再投資費 5,300億円</p>	3.4	<p>【首都圏空港の発着容量の増加】</p> <p>・首都圏空港の年間発着容量を約100万回と、世界の都市間競争に伍していく水準に向かわせ、首都圏空港の容量制約の解消に寄与する</p> <p>・我が国全体の航空需要の受け皿として、全国、関東、空港周辺地域において多様なインバウンド旅行者の受入に貢献し、全国及び地域の産業・都市の国際競争力強化や地域活性化に貢献</p> <p>【経済波及効果】（平成30年比）</p> <p>新滑走路供用時</p> <p>経済効果 年間 約1兆6,600億円 雇用創出効果 年間 約12.5万人 発着回数50万回達成時</p> <p>経済効果 年間 約4兆8,600億円 雇用創出効果 年間 約36.4万人</p>	航空局 航空ネットワーク部 首都圏空港課 (課長 鍛本浩司)